

エリア ウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。
 この情報誌は山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

親子でいっしょに感動する時間を！

数年前、小学校の担任をしていた時のことです。

ある冬の朝、霜が降りた畑道を、犬を引きながら、時には引っぱられながら歩いていました。

まだ薄暗い中を出発し、だんだんと辺りが白くなり始めた頃です。目の前の南アルプスを見た途端、思わず足が立ちすくみました。

いつもは白い雪を抱いている山々が、真っ赤に燃えて私の前に神々しくそびえ立っていたのです。感激のあまり我を忘れてしばらくその場に立ちつくしてしまいました。その後、急いで家に帰って家族に話し、その山々を見せようとしたのですが、残念ながら、その時にはいつもの静かな雪山に戻っていました。

その日の朝の会で、そのときのことを当時のクラスの子どもたちにも話しました。

すると数日後の朝の教室のことです。「先生、これ見て。」

一人の男の子が数枚の写真を持って、私の所へ来ました。なんとその写真には、真っ赤な南アルプスの前で、白い息をはきながら映っている彼の姿があったのです。

そのときの様子を彼に聞きました。私から聞いたことを家の人に話すと、「天気の良いときに一緒に見に行こう。」と誘ってくれたそうです。そして、親子で感動し、記念に写真も撮ってくれたそうです。

南アルプスを見た感動もあるでしょう。でも、親も来て一緒に感動してくれた嬉しさが彼の笑顔に表れていました。



夕方、家族で車を走らせていて、言葉で表現できないほどの美しい夕焼けを見ることがあります。

冬の朝、家のカーテンを開けると、突然の銀世界に驚嘆することがあります。

アスファルトの隙間から伸びる雑草を見て、生命のたくましさに驚くことがあります。

巨大な岩山や、見渡す限りの大海原などを見て、自然のスケールの大きさに圧倒されることがあります。

時々「1回しかない人生、たくさん感動した方が幸せだな」と思います。子育ての中にも、たくさんの感動があります。

子どもがはじめて立ったとき、よちよち歩いたとき、言葉を話したとき。親は子どもからたくさんの感動をもらっているはず。そして、子どもと一緒に感動できたなら、それはさらに大きなものになることでしょう。

感動は教えられるものではありません。「共に感動する」。このことが無言の教えになると思うのです。

地域との連携について考えてみる

子育て講座 地域に広がる

～ P T A 学習会で実現 ～



10月22日(月)に、笛吹市の一宮北小学校でP T A学習会が行われました。

実は、事務所主催の講演会に参加されていた一宮北小の保護者が、「ぜひうちの学校でも」と考え、学校側と協力してこの学習会が実現したそうです。

山梨大学の栗田真司准教授を招き、「子育ての在り方」について講演を聞きました。参加された保護者の皆さんも熱心に聞きながら耳を傾けていました。

《先生の話をも熱心に聞き入る保護者たち》



安全・安心な地域を守るために

11月26日(月)、山梨市の岩手小学校で東海地震の発生を想定した避難訓練を行い、市民や児童ら約300人が参加しました。

文部科学省の「地域ぐるみの学校施設防犯・安全点検支援委嘱事業」の一環として行われました。

訓練の内容は次の通りです。

不審者が侵入し、職員に被害が出たことを想定した不審者対策訓練。

防災無線を聞いた地域住民が地区毎に集合し、教室へ移動するなどの避難所運営訓練。

災害時に生活場所となる各教室で、気づいたことの話し合い。



《地区毎の住民による真剣な話し合い》

「安心・安全」は地域づくりの基本です。地域住民と共に実施する訓練の重要性を改めて実感しました。



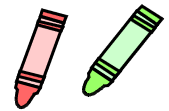
《不審者侵入の状況を警察に説明する職員》



警察の方より3人同時に犯人に対応することが大切だと指導を受けました。



学校の応援団は、子どもの応援団



地元業者の木材で巣箱作り

11月21日(水)に山梨市の八幡小学校へ取材に行きました。同校では、「命の大切さを学ぶ体験活動」を柱に校内研究を進めています。「自然の秘密をさぐる」「魚や人の誕生」「お年寄りとの交流」「命の誕生」などの活動を位置づけて指導しています。

6月には近所の水田を借りて、5年生が農家の方の指導を受けながら田植えをしました。そして、夏の間は、その水田の生物を観察し、秋には稲刈りを体験しました。これらの一連の体験活動を通して、米作りの大変さや苦勞と命のつながりの不思議さや尊さを実感したそうです。

今回は、近所の製材所から提供された木材で、5年生が鳥の巣箱を作りました。学校や家庭の樹木に取り付けて、1年後に巣箱の利用状況を調べるそうです。

「学校のためなら」「子どもたちのためなら」と協力してくれる地域の人々の存在は大きなものがあります。学校の応援団は、結局子どもの応援団なのですね。

《子どもたちも力を合わせて釘打ちです》

《出来上がった巣箱を持ってハイポーズ》



地域の保育所と小学校との連携

11月22日(木)には山梨市の後屋敷小学校へ取材に行きました。同校では、児童会の行事「後小祭り」を実施し、保護者や地域の人たちとの交流をしています。

今年は後屋敷保育所の年長児を招きました。校庭には様々な工夫された出店が並び、地域の人たちや園児たちが楽しそうに参加していました。特に園児たちは、もらった景品を大事そうに抱えて、次々と出店を巡っていました。「おじちゃん、これ見て。」と嬉しそうに見せてくれる園児もいました。また出店の小学生たちは、小さい子にも分かるように説明をしたり、手を取ってやさしく教えたりしていました。

園児たちが入学への希望や期待を持ち、小学校の児童が自信や自覚を高めることができる「保幼小の連携」。それぞれの地域で特色を持った連携ができるといいですね。

《宝物を必死で探す園児たち》

《出店でもらった景品を持ちニッコリ》



< 峡東地域の高校紹介の3回目は、石和高校の内容を掲載します >

石和高校 だよ！り！

今回は石和高校の特色の1つ・国際交流活動について紹介しよう！



全県一学区となった高校入試制度1年目として、本校国際教養科も気持ち新たなスタートとなりました。国際教養科の教育方針には、2つの大きな柱があり、その1つは大学を中心とした「進学」であり、もう1つが「国際交流活動」です。進学につきましては、昨年度、山梨大学工学部機械システム工学科、都留文科大文学部英文学科を始め、多くの難関大学等に合格し、進学しました。

ここでは、もう1つの柱である「国際交流活動」について、今年度の11月までをご紹介したいと思います。国際交流活動というと、外国でのホームステイというイメージがありますが、本校ではそれ以外の活動も活発です。

以下、本校の様子をご覧くださいと思います。

台湾中興高級中学交流・
県立博物館見学 5月

今回で2回目となりました、台湾国立中興高級中学の生徒たちとの交流活動です。この活動は単にその場限りのものではなく、年明け1月頃より、個々の生徒たちに台湾の生徒たちとメールの交換を行い、事前に友達になってお互いの交流を深め、会った後も交流を続けていこうというものです。

国際交流といいますが、とかくアメリカ、ヨーロッパに目が行きがちですが、アジアの中の日本であり、近隣諸国の高校生と、友達になることは今後、社会人として活躍する上で重要な礎になるものと確信しています。



オルバニークリーク校さよならパーティ
オーストラリアにて 8月

希望者による本校協力校オーストラリア・オルバニークリーク校ホームステイ語学留学。6月から本格的に研修を積み現地での2週間は極めて充実した日々でした。また、9月には、同校生徒が石和高校にて生徒宅にホームステイをし交流を深めました。オーストラリア・オルバニークリーク校との交流は今年で20年目になるという、素晴らしい実績のあるものです。また、本校のホームステイを中心とした国際交流活動は30年以上の伝統があることには、驚かされます。



オルバニークリーク校交流授業本校にて
9月

石和高校 国際教養科講演会 開催される！！

11月28日(水)本校文化創造館「緑風館」で、国際教養科講演会が開催されました。講師に、山梨県と姉妹都市のあるフランスより、県国際課国際交流員であるマチュー・ペリエ先生をお招きし、「フランスの生活と文化」について講演していただきました。先生自ら作成されたパワーポイントや、クイズを取り入れたわかりやすい講演に、本校国際教養科の生徒たちも、楽しくフランスについて学ぶことができました。また、この講演に対し、在日フランス大使館及び、山梨県国際課より多くの資料提供などをいただき心より感謝いたします。



国際教養科講演会
「フランスの生活と文化」
マチュー・ペリエ先生 11月

